

保存用天気図の内容は以下のとおりです。

1 日本周辺域地上天気図

アジア太平洋地上天気図（原図）の一部（日本付近）を切り出した図で、観測データは記入されていない。

2 アジア太平洋地上天気図（原図）

アジア太平洋域の地上面における気圧場について総観規模現象を対象として解析された図であり、擾乱等の追跡は気象庁の担当範囲（東経 100 度～180 度、赤道～北緯 60 度）に限って利用可能である。図中には天気、雲形、雲量、気温、露点温度、風向、風速、気圧変化傾向等の観測データが記入されている。

3 アジア太平洋高層天気図

アジア太平洋域の特定の等圧面（850hPa、700hPa、500hPa、300hPa）における高度場、および温度場に関する客観解析図で、各高層観測地点における観測データ（高度、温度、風向、風速、湿数）が記入されている。これらは客観解析図のため、アジア太平洋地上天気図（原図）に表現されている擾乱等には必ずしも対応しない。

4 北半球地上天気図

北半球の地上面における気圧場、および 850hPa 面の温度場に関する客観解析図である。

5 北半球高層天気図

北半球の 500hPa 面における高度場、および温度場に関する客観解析図である。

6 台風経路図

台風の確定した経路（ベストトラック）を図示したものである。経路は 6 時間毎の解析位置（00、06、12、18UTC）を結んだもので、経路の始点は熱帯低気圧（もしくは台風）として最初に解析された位置（日本の責任海域（赤道から北緯 60 度、東経 100 度から 180 度の領域）の域外から入ったものについては進入直前の解析位置）を示し、経路の終点は台風が消滅（→|）する直前に解析された位置（領域外に出たもの（→）についてはその直後に解析された位置）を示している。また、経路のうち破線部分は熱帯低気圧かあるいは温帯低気圧の状態にあったことを表している。経路図には 00UTC と 12UTC の解析位置がそれぞれ○印と●印で記されており、さらに、00UTC の位置にはその時刻の中心気圧と日付が、また、経路の始点と終点には該当する台風番号が付記されている。

# 各天気図の表示について

| 項目                      | 等圧線    | 等高度線   | 等温線  | 等風速線   | 作成時刻(UTC)   |
|-------------------------|--------|--------|------|--------|-------------|
| 日本周辺域地上天気図              | 4hPa 毎 | -      | -    | -      | 00、12       |
| アジア太平洋地上天気図<br>(原図)     | 4hPa 毎 | -      | -    | -      | 00、06、12、18 |
| アジア太平洋高層天気図<br>(850hPa) | -      | 30m 毎  | 3℃毎  | -      | 00、12       |
| アジア太平洋高層天気図<br>(700hPa) | -      | 30m 毎  | 3℃毎  | -      | 00、12       |
| アジア太平洋高層天気図<br>(500hPa) | -      | 60m 毎  | 3℃毎  | -      | 00、12       |
| アジア太平洋高層天気図<br>(300hPa) | -      | 120m 毎 | -    | 20kt 毎 | 00、12       |
| 北半球地上天気図                | 4hPa 毎 | -      | ※3℃毎 | -      | 12          |
| 北半球高層天気図                | -      | 60m 毎  | 3℃毎  | -      | 12          |

※850hPa の温度